

平成 20 年 3 月 27 日
日本環境安全事業株式会社

「北九州事業所 内部技術評価結果について」

日本環境安全事業株式会社では、P C B 廃棄物処理事業の円滑な実施のため、P C B 廃棄物の安全、確実な処理及び事故等の未然防止の観点から、処理施設の健全性及び運転・操業の確実性の確保と、これらの維持向上を図るために、定期的に内部技術評価（以下、技術評価）を実施することとしています。

内部技術評価実施要領に沿って、運転開始後 2 年後の技術評価を実施しました。北九州事業所対象の技術評価は、これまで運転開始後 6 ヶ月後、および 1 年後の計 2 回実施してきましたが、これまでの確認事項を基に、今回の技術評価（第 3 回目）では、安全・確実な運転のための対応状況はどうか（異常等に対する対応、処理能力等）、また前回技術評価時（運転開始後 1 年後）の検討事項等に対する改善措置結果についての評価を行いました。

今回の技術評価では、指摘事項として 4 項目があげられましたが、処理施設が概ね処理能力を満足し安全に運転されていることが確認できました。

1. 内部技術評価

参考資料 1 「内部技術評価の実施フロー」
2 「チェックリスト一覧」

（1）評価対象事業所

北九州事業所（運転管理課、安全対策室、総務課、営業グループ）

（2）技術評価の種別

運転開始後 2 年後の技術評価

（3）評価実施日

平成 19 年 11 月 27 日（火）

（4）重点評価項目

技術評価は、以下に示す重点評価項目に着目し実施しました。

- 1) 安全・確実な運転のための対応状況について（異常等に対する対応、処理能力等）
- 2) 前回 1 年後の技術評価の検討事項等に対する改善措置結果について確認

(5) 評価項目

技術評価は、以下に示す評価項目について実施しました。

- 1) 前回の技術評価の検討事項等に対する改善措置状況の確認
- 2) 対象地区に関する処理計画・方針
- 3) リスクアセスメントおよび業務管理
- 4) 法的およびその他の要求事項
- 5) 異常対応、是正および予防措置
- 6) 処理能力等（新規設備・改造設備、設備保全、環境保全と作業環境 他）

(6) 評価方法

技術評価は、これまでと同様にチェックリストを作成のうえ、事業所担当者に対するヒアリング及び資料閲覧により実施しました。

ヒアリングは、重点評価項目の観点から選定した27項目について、口頭での問い合わせ、説明および回答を求める方法で実施しております。

技術評価の結果は、以下に示す区分により判定しました。

- 1) 「適合」：安全・確実な運転のための対応が適正と判断された場合
- 2) 「指摘」：事業所に対して検討を要請する場合
- 3) 「所見（コメント）」：作業手順の是正又は改善のための意見、並びに特記すべき事項（評価すべき事項）がある場合

2. 技術評価の結果について

今回の技術評価に関する評価結果は、確認項目数27項目のうち指摘事項が4項目でしたが、処理施設は概ね安全に運転されていることが確認されました。

指摘事項4項目は、1) その他処理物の把握について、2) 環境・安全評価実施要領の見直し規定について、3) 行政からの要請事項について、4) 設備保全について、です。特に注記すべき内容としては、北九州市からの申し入れ事項の一つでもあります「作業基準の見直し」に関連して定期的な業務連絡簿からの作業手順書等への展開、及び市消防局立入時の要請事項に対する速やかな対応が望まれること（市消防局へ計画書提出済み）が挙げられました。

前回の1年後の技術評価の検討事項4項目及びその他気付いた点の2項目については、事業所として改善措置されたことを確認しています。

評価員の所見として、特に評価できる項目は以下がありました。

- ①対象区域における処理計画：広域調整協議会において議論され、各県毎の重点搬入計画を公表。期限内までの処理が完了見込み。
- ②環境・安全・健康等に係る法的要求事項：環境法規等一覧表を整備し随時見直しを実施。
- ③運転体制変更による見直し：ポートグローブの交換頻度見直し、設備点検頻度の見直しを実施。
- ④作業環境：入退室時の手順など汚染拡大防止を実施。

「別表」 内部技術評価結果並びに指摘事項に対する改善の基本方針（案）

技術評価項目	技術評価結果	指摘事項に対する改善の基本方針（案）
1) 前回の技術評価		
【評価項目数 6】 適合事項 6 指摘事項 0	前回の技術評価結果として挙げられた検討事項等の項目に関し、事業所として改善措置されたことを確認した。	—
2) 処理計画・方針		
【評価項目数 3】 適合事項 2 指摘事項 1	平成 18 年の広域調整協議会にて平成 18 年度以降の処理基本方針を決め、また平成 19 年 10 月に JESCO ホームページで北九州事業に係る各県毎の重点搬入計画を公表している。また、長期処理計画に係る調査票を作成している。 ＜指摘事項＞ 第 2 期事業の処理対象物である「その他処理物（PCB 汚染物等）」については、該当 PCB 汚染物等に対する詳細調査は進められつつあるので、今後はこれと併せて、処理料金の設定及びデータベースの整備も進めることが必要である。	「その他処理物（PCB 汚染物等）」の処理遂行のため、本社にて情報等の整備をしているところである。更に 5 事業所共通課題として、本社と事業所が連携して各課題の解決にあたる。
3) リスクアセスメント及び業務管理		
【評価項目数 3】 適合事項 1 指摘事項 2 (この指摘事項 2 件は関連事項であるので合わせて 1 件とした)	前回の技術評価以降、環境・安全評価委員会で 13 件審査。審査対象の改造箇所に関し、設計思想に戻り議論している。 ＜指摘事項＞ 環境・安全評価実施要領の見直しの規程がなく、見直しされていない。また、要領の基となる社長通達については、規定化するなどの対応が必要である。その際、チェック項目の見直し等についても別の場で議論することが必要である。	当該実施要領の見直し規定については、EMS の環境文書管理規定に習い、見直しを行うことを明記する。 また、要領の基となっている通達については、全社共通の規定となることから平成 20 年度中に内容を見直していく。
4) 法的及びその他の要求事項		
【評価項目数 1】 適合事項 1 指摘事項 0	環境法規等一覧表を確認した。随時見直して改訂している。毎日、公報等のチェックを実施している。	—

5) 異常対応、是正及び 予防措置		
【評価項目数 5】 適合事項 4 指摘事項 1	天井落下等の異常については是正・予防措置を実施していることを確認した。グローブボックスでの異常については現在対応中である。物流事故はない。 <指摘事項> 行政からの申し入れ事項の一つである「作業基準の見直し」について、業務連絡簿で作業手順書の見直し指示をしているが、見直しのルール化がされていない。運用面でのしくみ作りが必要である。	作業手順書の見直しのルール化を図り、改訂状況を確認するなどの仕組みを検討する。
6) 処理能力等		
①新規設備・改造設備 【評価項目数 3】 適合事項 3 指摘事項 0	コンデンサ前処理ラインの運転体制の変更で、グローブボックス素子刃およびポートグローブ等の消耗品の交換頻度の見直しをしている。 また、換気空調設備改造後の状況について、効果の確認を継続していくとしている。	—
②設備保全 【評価項目数 2】 適合事項 1 指摘事項 1	保全管理上、重要機器には表示をするなどの工夫をしている。 <指摘事項> 定期点検の完了検査時に、業務報告書の中に検査可否の判定基準が明確でない箇所があった。業務報告書のなかに判定基準を必ず記載するなど、特記仕様書へ盛り込むことを検討されたい。	定期点検等の業務発注時の仕様書において、可否判定基準を明確にする。
③環境保全と作業環境 【評価項目数 2】 適合事項 2 指摘事項 0	作業環境の対策として、靴・長靴の履き替え方法、作業環境測定時の靴カバー、ドア開閉時の注意など、入退室時の手順を見直して汚染拡大防止を実施している。	—
④その他 【評価項目数 2】 適合事項 2 指摘事項 0	運転会社に関係する、現状確認をした。運転会社に対する改善提案制度を設け、事業所としては報奨制度ガイドラインを制定した。	—

内部技術評価の実施フロー

